被爆72周年・平和の原点を見つめ
この地球から核と戦争をなくしましょう

第25回ヒロシマ市民の描いた

原爆 絵画展報告集

2017年8月26日(土)
2017年8月27日(日)
坂戸市文化施設オルモ

主催:原爆絵画展坂戸・鶴ヶ島地区実行委員会

後援:広島市、長崎市、埼玉県・坂戸市・鶴ヶ島市及び各教育委員会、丸木美術館
埼玉新聞社、テレ玉、FM NACK5、*NHK*さいたま放送局
朝日新聞社さいたま総局、読売新聞さいたま支局、毎日新聞さいたま支局、
東京新聞さいたま支局、琉球新報社

被爆７２年、第２５回ヒロシマ市民の描いた

原爆絵画展

開催日時　２０１７年　８月２６日（土）　１１：００～１９：００
　　２０１７年　８月２７日（日）　　９：３０～１８：００

開催場所　坂戸市文化施設オルモ

『展示品』

＊ ヒロシマ市民の描いた原爆絵画
　Ｎｏ.２４（２８枚）　Ｎｏ.３２（２９枚）

＊ 丸木位里・俊　作　「原爆の図」複製
　第３部「水」　第４部「虹」

＊ 写真及びパネル
　「原爆と人間」ヒロシマ・ナガサキ
　「なぜ原爆は投下されたか」４枚
　「沖縄戦・国内唯一の地上戦から７０年」１２枚
　「子どもたちの見た戦争（はだしのゲンとともに）」１０枚
　「３・１１巨大津波襲来」写真２５枚
　「東電福島原発事故、炉心溶融原発爆発」写真１３枚

＊ 被爆アオギリ２世の展示
　アオギリ写真・新聞記事「緑で平和を育てよう」など

＊展示品　原爆瓦、ガラス片

『ビデオ上映』　「はだしのゲン」他

『特別企画・被爆体験を次々世代に引き継ぐ』

お話　広島の被爆者、服部道子さん

【入場者数】　８月２６日（１０６人）２７日（１３７人）計２４３名

【アンケート回収】　計　９１枚

同時特別企画・映画『太陽の蓋』上映

８月２７日（日）１３時半～（オルモ３Ｆホール）

【鑑賞者　１１７名・感想アンケート回収　３６枚】

原爆・原発事故を風化させない取り組みを！

実行委員会代表　白石　俊夫

私たちヒロシマ市民の描いた原爆絵画展は、今年で25回目の開催になりました。

この間、この地球から原爆をなくすために、また子や孫に再び広島、長崎の悲惨な非人道的な原爆の犠牲にしないため、戦争反対などの運動を続けてきました。

25回目の開催を記念し3．１１東日本大震災の東電福島第１原発事故を風化させぬため特別企画、映画「太陽の蓋」を上映しました。

ヒロシマ市民の描いた原爆絵画展には、２日間で243名の、映画上映には117名の鑑賞者がありました。寄せられた感想文をご覧いただければと思います。また、広島で原爆被爆した服部道子さんの被爆体験談「次々世代に引き継ぐ」として再びあってはならないと原爆投下の恐ろしさ、悲惨さが話されました。

原発事故による放射能は今なお拡散中で、避難困難区域が縮小されたとはいえ、未だ５万５千人の人々が故郷に帰れない、故郷と日常生活を失った人たちの心情を無視し、事故の原因が何ら究明されないのに３年前から九州電力川内原発１号機が再稼働を始めました。

今年の７月、ニューヨークの国連本部で「核兵器の使用や保有などを法的に禁止する「核兵器禁止条約」がヒバクシャの国連でのロビー活動の成果もあり122国の賛成で成立しました。その陰には国連上級代表の日本女性の中満　泉さんの働きかけもあったと評価されています。しかし、日本は核兵器禁止条約について北朝鮮との緊張を理由に核保有国５か国と一緒に条約にボイコットしました。被爆国日本として全く許せない態度です。

しかし、ノーベル平和賞に「核兵器を条約で禁止しようとするICANの画期的な努力」が受賞しました

原爆絵画展実行委員会は、坂戸市議会と鶴ヶ島市議会の９月市議会に対し、日本政府に対し｛核兵器禁止条約への参加を求める意見書」を出すように要請書を提出しました。結果は「意見書」は採択されませんでした。

私たちは戦争も原爆も原発も次世代にあってはならないことから、小さな行動でも原爆や原発事故を風化しないように言い続けていこうではありませんか。

核と人類は共存できない
～ヒロシマ市民の描いた原爆絵画展を終えて～

武井　誠

被爆72年目の夏に

今年も8月26、27日、坂戸市文化施設オルモで「第25回ヒロシマ市民の描いた原爆絵画展」を開催しました。絵画のほかに、原爆瓦やガラス片、被爆アオギリ2世、東日本大震災・福島第一原発事故の写真なども展示しました。

今年は27日午後に3階ホールで、福島第一原発事故を描いた映画「太陽の蓋」上映会も行い、会場はほぼ満席。絵画展への入場者数も前年を大きく上回り、2日間で243人の方にご覧いただくことができました。

被爆者　服部道子さんのお話

26日には、蕨市から被団協の服部道子さんが実行委員会の激励に来場してくださり、会場でお話もしてくださいました。

服部さんは戦時中、広島市の軍医部で看護業務に従事し、16歳の時に爆心地から3.5キロの地点で被爆しました。気を失うが、日本兵に叩き起こされ防空壕に逃げ込む。その後三日三晩飲まず食わずで、火傷を負った人々の手当治療、死体処理に奮闘。戦後は、広島を出て青森県、福島県など国内を転々とするが、原爆病や差別に悩まされ辛い時期が続いたとのことです。1985年から証言活動を開始し、学校などで原爆の実相を伝えていらっしゃいます。筆舌に尽くしがたい辛く苦しい体験を語られ、その上でなお「しかし、なぜ原爆は落とされたのか。加害の結果としての被害であったということを忘れてはいけない。また、核と人類は共存できません。会場にそういった展示が併設されていることや映画の上映は、いいことだと思います。」と話されました。服部さんの人生と重ねあわせ、聴く人の心に、重く突き刺さるものがありました。

来年は、もっと多くの方に服部さんのお話を聴いていただきたい、と実行

委員会で話し合っています。

映画「太陽の蓋」上映会

ドキュメンタリーではなく、力のある俳優たちが演じた原発事故直後の国、東電、マスコミ、事故現場を描いた映画です。「丁寧な取材に基づいた映画であり、見ごたえがあった」との感想を多くいただきました。

福島原発事故はまったく収束していません。高い放射線量のために廃炉の見通しは全く立たず、汚染水は増え続け、汚染土の処理先は決まらず、今なお 6 万人近い人たちが避難を続けています。にもかかわらず「すぎたこと」「なかったこと」とでもするかのように、帰還がうながされ、補償・賠償が打ち切られはじめています。

「私たちは福島を忘れない」というメッセージを発信し続けることは重要です。そういう意味でも意味のある上映会であったと思いました。

日本政府は「核兵器禁止条約」への参加を！

後日、開催期間中の交流、来場者アンケートなどを踏まえて実行委員会で話し合い、原爆絵画展坂戸・鶴ヶ島地区実行委員会として、坂戸市議会に「『核兵器禁止条約への参加を求める意見書』の提出に関する要請書」を提出しました。残念ながら、議会運営委員会で意見の一致が見られず、取り上げられませんでしたが、要請の趣旨自体に賛同する声は、少なくありませんでした。

絵画展で、被爆者の方々の描かれた絵画をご覧いただくと「あらゆる外交的手段を尽くし、絶対に戦争をさせてはいけない」「子どもたちの未来に、核も戦争もいらない」という確信・決意を持つことができます。来年度は、さらに多くの市民の方においでいただきたいです。

また、絵画展実行委員会に加わって下さる方を常時、募集しています。

「特別ゲスト、被爆体験を語り伝える服部道子さんをお招きして」　　熊谷憲治

アッ　赤ちゃんの首が！

―被爆体験語る見習い看護士―

１９４５年８月６日、広島の爆心地から約３キロにいた服部道子さんはピカッ、ドンともに意識を失いましたが、奇跡的によみがえりました。彼女は、当時１６歳で、高等女学校看護科を卒業したばかりでしたので、自らも被爆したにもかかわらず、軍医部にかり出され、オロオロして軍医に叱られながら、生死の境をさ迷い苦しむ被災者たちの応急治療を手伝わされました。ほとんどは身体全体が焼けただれて骨まで見え、顔は毬のように腫れて、男女の区別もつかないほどでした。手当てしようと手を身体に触れると、ペロッと皮膚がむけ垂れ下がったりしましたが、乳飲み子を背負った母親の手当てをしようとした際に衝撃的なことが起こったのです。

１６歳の小娘だった服部さんのこうした想像を絶する体験。原爆絵画展実行委員の一人である私は、アベ政権が強引に成立させた戦争法（安保法）に対する違憲訴訟の公判で（６月９日浦和地裁）切々と意見陳述をした服部さんの語りを傍聴しました。その後、彼女に接して坂戸で原爆絵画展の話をしたところ、８月２６日の絵画展に来てくれました。彼女は蕨市にお住まいで現在８８歳ですが、とてもそのような高齢には見えずお元気で、来年の坂戸の原爆絵画展にも来てくれるそうですから、その時はより多くの方々に服部さんの体験を聞いて欲しいと思います。

ヒロシマの「語り部」となる使命感

服部さんはその後、東京、埼玉などに移り住みましたが、生涯にわたってこの悲惨な体験を人々に語り伝えようという、強い使命感をもって自らを「語り部」と決め、「しらさぎの会」（埼玉県原爆被害被害者協議会）理事として核兵器廃絶の運動にご尽力されています。

服部さんは裁判でも「「戦争や核兵器の再利用につながる、意見の安保法の廃止を心から願っています」と訴えていました。

２０１７年・寄せられた参加者の感想文

＊戦争って悲しいし、おそろしいと思いました。（小４・男・坂戸市）

＊たくさんの人が死んだとわかった。さいしょはたすかっても、後でしんでしまう人もいた。絵がすごい。こわかった。（小４・女・坂戸市）

＊原子ばくだんが落ちてきて、たくさんの人がなくなっていって、体験した人は「もう二度と原子ばくだんは落ちてほしくない。せんそうはもうおきてほしくないと思っていると思います。これからは平和にくらしたいです。（小４・女・坂戸市）

＊絵画を見て感動しました。（小５・男・坂戸市）

＊ざんこく（小５・男・坂戸市）

＊日本人はひがい者でもあるけど、かがい者でもあることを知りました。絵はひとつひとつ心がこもっていて、それが「悲しい」「さみしい」「苦しい」とさけんでいるような気がします。もう二度と日本に、世界に「戦争」が起きないことを願います。（小５・男・鶴ヶ島市）

＊原ばくのおそろしさをしらなかったのでびっくりしました。（小６・女・坂戸）

＊写真や絵がこわくて、少し気持ち悪いのもあった。（小６・男・鶴ヶ島市）

＊たいへんな時だった絵をかけてすごいと思った。（小６・男・鶴ヶ島市）

＊原爆の恐ろしさを改めて知りました。絶対に二度と戦争をしてはいけないと思いました。（中２・男。坂戸市）

＊人間のすることじゃありませんね。二度と起こってはいけないですね。この様な機会を設けて頂きありがとうございます。（２０代・男・坂戸市 ）

＊子どもにはなかなか伝えられないので、実際目で見てもらうことで、当時の様子を知ってもらえたかと思います。自分も学ぶことができました。悲しい思いをする人がいない世の中になることを願い、エネルギーについても考えていきたいと思います。（３０代・女・坂戸市）

＊絵だけでなく、リアルな写真があり、本当に本当にこれが実際に起きた出来事だったのだと、怖くなるとともに、絶対に二度と戦争は起こしてはいけないと思いました。戦争を体験していない私たち世代が、どのように伝えていけばいいのか考えていかなければと思いました。（３０代・女・坂戸市）

＊子どもの頃に広島の原爆ドームに行ったことがありました。そこでいろいろと見ましたが、３０年ぶりくらいに改めて、体験した方の絵や写真を見て、やはり怖いし、戦争は絶対にやってはいけないと思いました。
（３０代・女・坂戸市）

＊戦争について、子どもなりに知って感じてもらう機会をなるべく持たせたいと思います。絵を見て、言葉にできない悲しい苦しい気持ちになりました。
（３０代・女・鶴ヶ島市）

＊以前上の子が小学生の時にも一度来ました。その娘ももう高校３年生になりました。今回は下の子（今、４年生）と散歩の途中に寄らせて頂きました。まだ少しわからない様ですが、戦争が悪い（こわい）事だというのは知っています。また、もう少し大きく（中学生）になったらまた、連れて来たいと思っていますので、是非続けてください。今回手持ちがなかったので「カンパ」ができなくて残念です。すみません。（子どもも残念がってました）
（４０代・女・坂戸市）

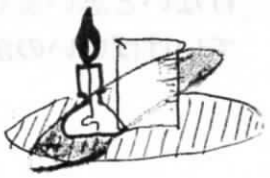
＊平和な今に生かされていることに感謝しつつ、過去の現実もしっかり見て、子どもたちにも勉強する機会がもっとあるといいと思いました。
（４０代・女・坂戸市）

＊ふだんなかなかこのようなことを学ぶ機会はないので、子どもに見てもらいたくて家族で来ました。繰り返さないためには、真実を知ることが第一歩と思います。多くの人にも見てほしいです。ありがとうございました。
（４０代・女・坂戸市）

＊このような事を今後繰り返さない平和な世界になるよう願うばかりです。
（４０代・女・坂戸市）

＊教科書の中の「戦争」が、歴史上の出来事ではなくなってきているのを実感する日々。子どもを持つ立場になり、平和のありがたさを改めてかみしめるようになりました。今こそみんなで訴えるべきです。戦争反対！！
（４０代・女・坂戸市）

＊教科書では原爆を勉強しても、その恐ろしさを知らないということが分かったので、子どもに少しでも分かってもらいたくて来ました。思い返せば、私の小さい頃は、８月はテレビでいろいろやっていたのに、今は、アニメさえもやっていないので、わからないですよね。『はだしゲン』を子どもと見ることができてよかったです。（４０代・女・坂戸市）



＊原爆展に初めて来ました。幼い時に映画館で『はだしのゲン』を見た記憶は、今も衝撃的に覚えています。戦争・テロが無い世界が一日も早く訪れてほしいです。（４０代・男・坂戸市）

＊戦争は絶対に起こしてはいけない。平和を希求する一員として、自分に何ができるのか考え、行動していきたい。開催期間が２日間。人の少なさ。もっと多くの人に足を運んでもらえる広報が必要ではないでしょうか。（４０代・男・坂戸市）

＊子どもの頃原爆の映画を見て、なんとなく怖さを受け入れない勇気に、今日後悔をしました。大人になり子どもが生まれた今、子どもと共にこの絵画展を見ることができよかったです。まだまだ知らなくてはいけない事が沢山あるんだと、伝えていかなければならない日本の悲しい本当にあった現実を、今一度、子どもたちと話していきたいと思いました。（４０代・女・鶴ヶ島市）

＊とても考えさせられる展示でした。私たちが忘れてはならない、繰り返してはならない戦争ですね。（５０代・女・坂戸市）

＊テレビでいろいろ特集をやるのは見るようにしています。７０年以上たって、ようやく語られることも多くあります。親は戦争の事は話しませんでした。トップに立つ人の決断という重さ。終わらせるのを決める一歩を考えていただきたいです。（５０代・女・坂戸市）

＊いまだに同じ危機がある、そう思うと耐えがたい。繰り返してはならないというメッセージがこれだけたくさんあるのに。喜びというものが個人化されてとても小さいものになっている以上に、悲しみや恐れはもはや取るに足りないものになっているのかもしれない。だからこそ伝えていかなければならないと存じます。（６０代・女・坂戸市）

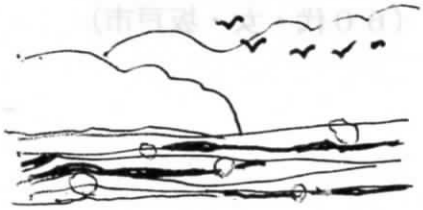
＊広島市民による絵画がこれほどあったとは知りませんでした。どんな思いでこの絵が描かれたと思うとやりきれません。こういう現実があったと伝え続ける必要を感じます。（６０代・女・坂戸市）

＊詳細な写真等でわかりやすかったです。（６０代・女・坂戸市）

＊戦争の事実・現実を語り継いでいかなくてはいけないと思います。（６０代・女・坂戸市）

＊来てよかったです。ありがとうございます。知っているつもりでいましたが、写真や絵を見て気持ちを新たにしました。戦争は絶対にさせてはいけない！（６０代・女・坂戸市）

＊参考になりました。戦争にならない事を祈ります。（６０代・女・坂戸市）
＊中国人に対する日本軍の行った行為はひどかった。（６０代・男・坂戸市）
＊すばらしい企画です。来年も続けて下さい。（６０代・男・坂戸市）
＊伝えることが大切かと思います。（６０代・男・坂戸市）
＊こんなに多くの原爆絵画を見たのは初めてでした。（６０代・男・坂戸市）
＊毎年企画して下さい。小中学生などにもＰＲをしてみてほしいです。
（６０代・男・坂戸市）
＊いつも皆様のご活躍に感謝感激です。健康に気をつけ、これからもよろしくお願いします。少しずつ若い人たちにも譲りながら続けて行ってください。
（６０代・女・鶴ヶ島市）
＊戦争というものが、写真等でよくわかります。素晴らしい展示でした。
（６０代・男・川越市）
＊戦争の悲惨さと情報統制の恐ろしさを改めて感じた。参加していた方々は、ほとんどが年配の方だったが、若い世代にも見てほしいと思った。
（６０代・男・川越市）
＊毎年この原爆絵画展を開催してこられた市民の持続力に敬意を表します。続けていくことが大切な、そして強い力であると思います。今後とも多くの市民、若い世代に伝えていってください。（６０代・男・川越市）
＊８０年代は朝霞でも原爆絵画展を開いていました。久しぶりにヒロシマ市民の描いた生々しい絵画を見て。平和の大切さを改めて痛感しました。
（６０代・男・朝霞市）
＊昔、広島の方に行った時も感じましたが、今回の原爆絵画展を見て、改めて戦争の悲惨さを感じました。これらを言い伝えていかなければならないと思いました。世界で戦争がなくなることを願うばかりです。
（６０代・男・朝霞市）
＊原爆資料館高橋館長時代に広島に行きました。大学最後の年で「市民の手で原爆の絵を」拝見。改めて平和の尊さを誓いました。（６０代・男・北本市）
＊戦争をしてもだれも幸福になれません。原爆当時の絵を見るたび、そのむごさに悲しみと怒りを覚えます。（７０代・女・坂戸市）
＊若い人たちに日本のたどった歴史を伝えてゆく、こうした運動を支援します。（７０代・女・坂戸市）
＊こんな恐ろしいこと二度と起きないことを祈ります。悲惨、狂っています。
（７０代・女・坂戸市）



＊私は昭和１７年生まれ。戦争中に生まれ３歳で終戦。父の実家へ乳母車に乗せられ疎開したこととか、山が真っ赤になっていることとか，Ｂ２９の 音はまだ耳に残っています。もう戦争は絶対起こしてはなりません。そして、原爆も絶対悪い。（７０代・女・坂戸市）

＊改めて戦争の悲惨さを感じました。食糧難は体験しましたが、本当に戦争の無駄、残酷さを改めて感じました。（７０代・女・坂戸市）

＊戦争の悲惨さ、残酷さ、異常さ、人間の非情さ、弱さにため息が出るばかりです。絶対にあってはならぬ、してはならぬ戦争！戦争体験のない現在の首相の考えが恐ろしい！（７０代・女・坂戸市）

＊特別ゲストの服部道子さんのお話、つらいおもいで伺いました。しかし、米寿までお元気で美しくお心の現れですね。「はだしのゲン」のビデオも悲惨でした。（７０代・女・坂戸市）

＊服部道子さんのお話は聞きごたえがあり、またの機会にゆっくりお聞きしたいと思いました。（７０代・女・坂戸市）

＊言葉もありません。企画ありがとうございました。「３・１１・大津波」は人の力、知恵で無くせないが「原発事故・被害」は人の知恵で無くせる。これを同じ『被災』といっていいのかな。　（７０代・男・坂戸市）

＊第二次世界大戦での日本の参戦から日本軍の軍部が行った事柄はひどい。これが最終的に米軍が原子爆弾で終了したことをみると、一般市民を含め、約３００万人の人々の命を奪っている。現在も被爆した人の死が絶えない。「このような戦争はぜったいにすべきでない」と感じました。今回の絵画展でその悲惨状況が分かった。（７０代・男・坂戸市）

＊二度とこのような事があってはならないとつくづく思います。（７０代・男・坂戸市）

＊原爆の悲惨さを改めて認識した（７０代・男・坂戸市）

＊脱原発が一日も早く実現してほしい。戦争など絶対にあってはならない。（７０代・男・坂戸市）

＊原爆の悲惨さ、戦争の恐ろしさを痛感！原発反対、戦争反対。今後の活躍祈る（７０代・男・坂戸市）

＊この種の運動がたくさん生まれ、長く続きますように共に歩みましょう。（７０代・男。東松山市）

＊東松山市の原爆の企画を見に行った事があります。（７０代・女・東松山市）

原爆絵画展及び特別企画『太陽の蓋』感想とアンケート

＊あの日の事を思い出しながら見てしまいました。混乱の中、それでも必死に誰もが生きてきたんだなあと思いました。雪の壁の向こうの『原発、こんなものでは防げない』といわれていたことが現実になってしまった恐さを思い出しました。平和で安全な国を希求します。（３０代・女・坂戸市）

＊映画よかったです。原発を再稼働させているのはとんでもないことです。満員でしたね。素晴らしいです（５０代・男・坂戸市）

＊冷房がききすぎて寒かったです。音が少し大きすぎました。また、構成が複雑なので字幕があればよかったと思います。（５０代・男・日高市）

＊原発は不要である（５０代・男・越生町）

＊私たちの知らない事実は山ほどあると思います。政府の「知らせない」政策にもとづいた政治は、戦前の世界大戦へ突き進んだあの当時の軍部が政治の実権を握っていたあの当時とほとんど変わっていないと痛感しています。国民に「知らせない」事実は恐ろしいほど大きなものだと思います。こうして「知らせない」政府の政策の中で少しづつでも公開していく映画なりを作って、私たちに知らせて頂きたいと思います。知らせていくという勇気に今後とも期待してます。有難うございました。（６０代・女・坂戸市）

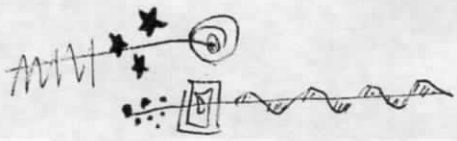
＊見たい映画だったので良かった。忘れられない３・１１。日本の危機管理の杜撰さがよく判った。脱原発はどうしたらいいのか。（６０代・女・坂戸市）

＊原爆・戦争は人の心の善、慈悲の心をすべて消し去ってしまう恐ろしい魔物です。目に見えない放射能がその時のすさまじい悲惨さだけでなく、人も自然も町も地球そのものを壊していきます。大きな権力が魔物に傾かないよう絶対に反対し許してはいけない。二度と繰り返してはならない過ちです。平和な今の日本に大切な思いを思い返す良い時間でした。人間の手に負えない放射能を身勝手に使うことは恐ろしい事です。（６０代・女・坂戸市）

＊当時の事を思い出しました。忘れてはいけないと痛感！多くの人達に見てもらいたく思う！原発は是非ストップです！！（６０代・女・坂戸市）

＊日本に在住する外国人が避難（日本から）をしているというのに。日本人には情報が入っていなかった。今もあちこちで隠すことは続いていますよね。（６０代・女・坂戸市）

＊終了時間の案内があるとよかったです。パンフレットの原発の恐ろしさ、後遺症いったいどうするんでしょう。原発絶対反対。（６０代・女・坂戸市）
＊今なお、福島原発事故は続いている。脱原発に進もう（６０代・男・坂戸市）
＊感動いたしました（６０代・男・坂戸市）
＊原発反対と言いながら、冷房のききすぎるくらいの電気を無駄に使う感覚が分からない（６０代・男・坂戸市）
＊東日本大震災の時の民主党政権の動きの再現。迫力ありました。報道されないこと、新聞記者の苦悩等、よく分かりました。脱原発を進めていきたいです。上映いただきありがとうございました。（６０代・男・坂戸市）
＊あの時は情報が入り乱れ過ぎていて、改めて振り返る機会となりました。私の故郷も風向きによる該当地区です（６０代・男・坂戸市）
＊「専門家と考えられている東電・安全委員会」などが全くの素人であったことがよく分かるものでした。（６０代・男・鶴ヶ島市）
＊市民のひとりとして行動をしていかなければ、本当に考えて行かなくては。（６０代・女・東松山市）
＊絶対原発反対！（７０代・女・坂戸市）
＊いろんな問題を提起した映画だと感じました。私は生活クラブの組合員で『３・１１を忘れない』というプロジェクトで少しは支援しています。これからも少しでもやっていきたいと思います。（７０代・女・坂戸市）
＊原発反対（７０代・女・坂戸市）
＊大変良い映画を見ました。いつも頭を悩ませています。この日本のこと、どうすべきか。一人の者が何が出来るか。未来のために、ひとりが大勢の為に考えるべきことと思います。（７０代・女・坂戸市）
＊菅直人に責任を押し付けて再度原発を維持しようとしている人たちに反対する。（７０代・男・坂戸市）
＊今日は貴重な学習の機会を作っていただき有難うございました。（７０代・女・鶴ヶ島市）
＊「何も終わっていない」という言葉が印象に残った。（７０代・男・日高市）



太陽の蓋

3.11

危うい真実をあなたは目撃する

北村有起哉　袴田吉彦　中村ゆり　郭智博　大西信満／神尾佑　青山草太　菅原大吉　三田村邦彦

菅田俊　井之上隆志　宮地雅子　菜葉菜　阿南健治　伊吹剛

■製作 映画館 ■プロデューサー 大沼淳 ■音楽 ミッキー吉野 ■原本 長谷川隆 ■アソシエイトプロデューサー 大野拓矢 ■ラインプロデューサー 加藤剛治
■撮影 小宮田紀夫 ■録音 及川一 ■照明 林大樹 ■録音 長井朋之 ■整音 小笠元 ■編集 小林由加子 ■VFXプロデューサー 江興史 ■衣装 太田智 ■衣装 高橋裕治
■ヘアメイク 金澤恵 ■スクリプター 渡辺真由美 ■助監督 増田敦 ■制作担当 宮崎翔 ■監督 佐藤太
■共同プロダクション アイコニック ■製作「太陽の蓋」プロジェクト ■配給・宣伝 太秦 ■宣伝協力 ケイ・アイ・ニス
【130分 カラー 使用 DCP Vista Size Stereo(5.1)】 ©「太陽の蓋」プロジェクト Taiyonofuta Tanyoshi

www.taiyounofuta.com

福島原発事故から5年。関係者による著書、様々な報道番組やドキュメンタリー、調書の公開など…当時の状況が解明されたかのように見えつつ、人々の記憶は早くも風化され真相が明らかにされることなく原発事故問題の幕が引かれようとしている。

本作品では数多くの報告書や資料の分析をすると共に、事故対応当事者であった政治家や現役新聞記者、被災地である福島での直接取材を敢行。5年という年月が経った今だからこそ伝えられる、『あの日』をセンセーショナルにあぶり出す。

真実に肉薄するポリティカルドラマ

東日本大震災～福島原発事故が起きた3月11日からの5日間。原発事故に迫る新聞記者をキーパーソンとし、当時菅直人政権であった官邸内、さらに東京や福島で暮らす市井の人の姿を対比させて描く本作。

菅内閣の政治家は全て実名で登場させ、原発事故の経過や対応を事実に沿って丹念に追う。情報が錯そうする中、極限の緊張状態にあった人間ドラマを描き、官邸内部のリアルな様子を浮かび上がらせる。原発と共に生きて来た福島の人々の葛藤、事故発生によって翻弄されるマスコミや東京に暮らす人々を切り取ることで原発と日本人の姿を俯瞰的に捉えている。情報収集に奔走する記者・鶴島役には数々の映画・ドラマ・舞台で活躍し日本映画界では欠かせない存在で映画初主演の北村有起哉が、菅直人役にはベテラン俳優三田村邦彦がそれぞれ扮し作品に重厚感をもたらしている。

8月27日（日）坂戸市オルモ3F（北坂戸駅東口1分）

13：00開場 13：30開演

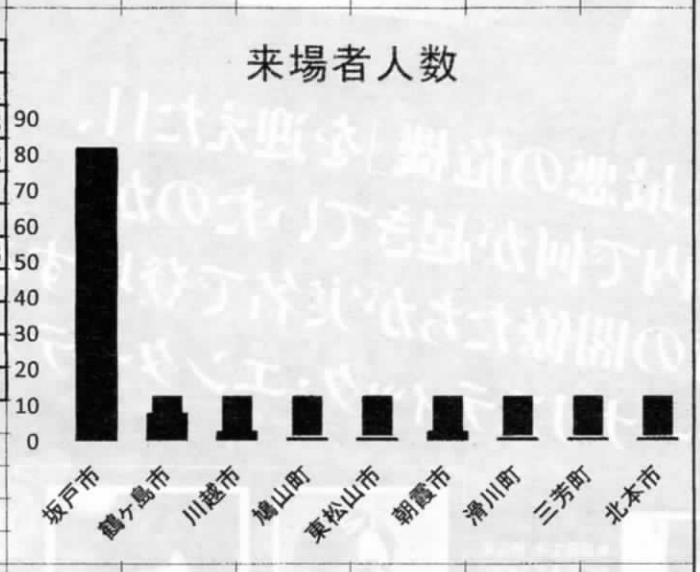
一般前売800円（当日1,000円）
大学生・高校生・障がい者・介助者500円
中学生以下無料

前売連絡先

武井：090-9854-5175
白石：090-2314-3245
池辺：049-282-0495

上映主催：原爆絵画展坂戸・鶴ヶ島地区実行委員会

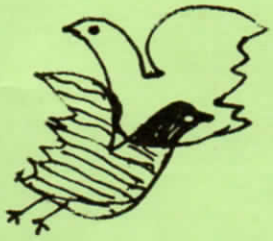
	A	B
1		
2	来場者の住所	
3	自治体名	人数
4	坂戸市	82
5	鶴ヶ島市	8
6	川越市	3
7	鳩山町	1
8	東松山市	1
9	朝霞市	3
10	滑川町	1
11	三芳町	1
12	北本市	1
13	計	101
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21	太陽の蓋	
22	自治体	
23	坂戸市	28
24	鶴ヶ島	4
25	日高市	2
26	越生町	1
27	東松山	1
28	計	36
29		
30		
31		
32		
33		
34		
35		
36		



原爆絵画展の成功のために
私たちも協賛します

２０１７年８月２６・２７日に開催された原爆絵画展に多くの方から協賛金が寄せられました。
お名前の出せる方のみ、以下に掲載させていただきました。
ご協力を感謝します。（敬称略・順不同）

家所明未　池田健司　池辺義文　池辺悠子　板倉　聡　上田海南子　上田典男
上野美江　内田秀人　岡野　勉　大北満子　川村訓史　川村まり子　金井俊貴
神立祐子　熊谷憲治　越川　求　黒渕京子　斉藤里子　佐藤公子　佐藤郁子
清水はるみ　白石俊夫　白石美恵子　仁藤幸雄　菅原英子　武井　誠　武井真澄
武井真人　武井道子　武井久美子　武井倫太郎　武井マイケル　武井ラフェル
武井芙由子　為我井ノリ子　田中明子　田中重仁　高比良伶子　津嘉田和子
高柳允子　高橋　剛　高橋　勇　為我井ノリ子　辻谷清江　出口研介　徳升悦子
中野京子　中澤てる子　中澤雄一　中澤きよみ　長嶋里子　成田美智子　林まり
橋本蓉子　花田勝夫　服部道子　馬場勝彦　星敏江　平岡紗来　間仁田香代
円城忠文　町田武俊　町田敬子　松本義之　丸茂富子　武藤昭子　森田幸子
ムサ・ヤロ．ジャック　山本弘子　安田佳子　山崎幸雄　吉田　勝　吉田　博
吉田照秋　依田彦三郎　きままや
坂戸市　　坂戸市教育委員会　　坂戸市議会議長
鶴ヶ島市
埼玉教職員組合入間北単組
社民党坂戸総支部
会場カンパ



ほか多数ご協力いただきましたこと、慎んでお礼申しあげます。
なお、誤字、記載もれ等失礼がございましたらご容赦ください。

［原爆絵画展ボランティア・スタッフ］
池辺・上田・岡野・金井・桑原・熊谷・佐藤・白石（俊・美）・熊谷・高比良
武井（誠・真）・中野・平岡・町田（俊・敬）・安田・山崎・リチャーズ・吉田

発行　原爆絵画展坂戸・鶴ヶ島地区実行委員会

（問合せ先：：☎049-289-2527　武井）